



JIC インフォメーション

第 136 号 2006 年 1 月 10 日

年 6 回 1・2・4・6・9・11 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京事務所: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 小島ビル 6F

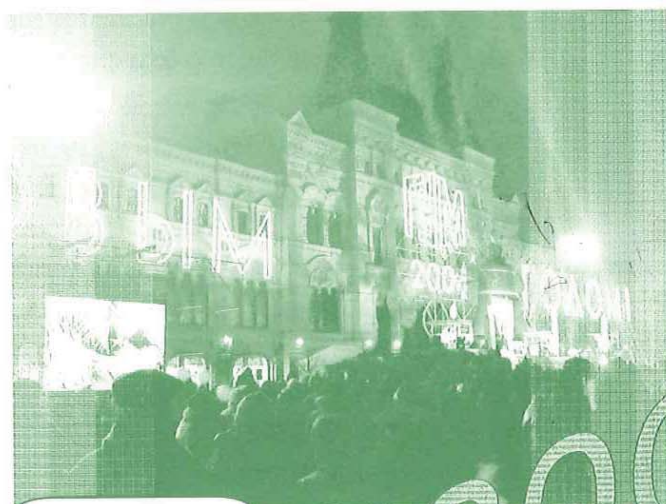
TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪事務所: 〒540-0037 大阪市中央区内平野町 2-2-4 コスミックビル 3F TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連
国際交流誌

С Новым Годом!!

あけましておめでとうございます!!



JICは頑張る人を
応援します!



ホームページも
チェックしてね!

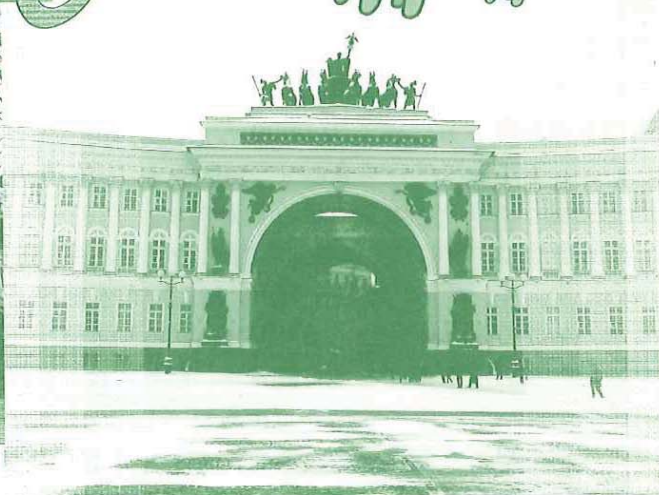
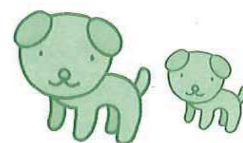
2006

本年も

よろしくお願いいたします!



JICスタッフ一同



<http://www.jic-web.co.jp>

左上写真: 「モスクワ・赤の広場でのカウントダウンイベント」 左下写真: 「モスクワ・ Gum百貨店内のクリスマスツリー」

右下写真: 「厳冬のサンクトペテルブルグ・宮殿広場」

JICスタッフより新年のご挨拶・・・・・・・・・・ 2-10P

JICイベント報告&予告・・・・・・・・・・ 14-15P

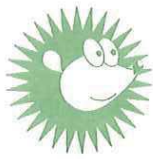
ロシア政治経済事情と留学<前編>藤本和貴夫氏・・ 11-13P

JIC情報・・・・・・・・・・ 16P

JICでは、Jクラブ(JIC友の会) 会員を募集しています。

年 6 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

JICスタッフより新年のご挨拶



あけましておめでとうございます

Поздравляем с Новым Годом!!



あけましておめでとうございます。昨年同様、本年も JIC 国際親善交流センター、ならびにジェーアイシー旅行センターをよろしくお願いいたします。

交流活動を広げて行きたいと思います。

事務局長 伏田 昌義 (ふしだ まさよし)

旅行はもっともポピュラーな市民交流

～日ロ観光交流 3 倍増計画に合流します!!～

昨年は「日露修好 150 周年」でした

が、今年は「日ソ共同宣言 50 周年」です。1956 年に日本と当時のソ連邦 (現ロシア) が国交回復してから 50 周年の節目の年にあたります。



伏田です

昨年 11 月にプーチン大統領が来日した際には、首脳会議と併せて「日ロ経済協力フォーラム」や「日ロ観光交流促進協議会」が開催され、日本とロシアの経済的文化的交流を一層拡大していくことが合意されました。とくに、「日ロ観光会議」では、今後 3 年間に日ロ間の交流人口を現在の 3 倍に拡大しようとの合意がなされました。一昨年 2004 年の日本人のロシア訪問者数は約 9 万 2000 人、ロシア人の日本訪問者数は約 5 万 6000 人 (合計 15 万人弱) なので、3 年後には日ロ合わせて 40 万人以上の相互訪問を実現しようという意欲的な計画です。

観光旅行は、多くの人が最も参加しやすい市民交流の機会です。ビジネス (経済交流) は相互依存を前提に成り立つものであるだけに、国と国、人と人との結びつきをさらに強固なものにしてくれます。私たちは、ジェーアイシー旅行センター (株) の旅行業務を通じて、何よりもまず日ロの観光交流の拡大に力を注ぎたいと思います。

同時に、昨年東京に開設した「ロシア情報センター」をよりどころとして、ロシア語学習、留学サポート、日ロの文化交流の拡大に、今年も全力で取り組んでまいります。2003 年の日ロ首脳会議で合意された行動計画にもとづいて、「日本におけるロシア文化フェスティバル 2006」の取り組みも日本ユーラシア協会などを中心に活発に行われようとしています。これまで“マイナーな”存在であり続けてきたロシアが、もっともっと身近な親しい存在になるように、多くの人たちと協力しつつ、

ウラジオストクからの嬉しい宿題

季節はずれで肌寒くなっていましたが昨年 10 月、ひさしぶりにロシア極東地域のウラジオストクとハバロフスクを訪ねてきました。ウラジオストクでは全ロシア子供センター「オケアン」(Ocean 太平洋の意)を見学。

(かつてピオニール・キャンプと呼ばれ夏期にロシアの子供たちが共同学習・生活を体験するための施設。キャンプと言っても野外にテントを張るものとは違い、日本でいう林間学校のイメージに近い。10・15 歳対象。) オケアンは 850 名の収容人数を誇るロシア連邦内でも屈指のキャンプの一つに数えられ、JIC もウラジオストクが外国人に開放されて以来、日本から子供たちを派遣して日ロ子供交流を実施していました。しかし、ソ連邦の解体やロシア経済の市場化などにより社会そのものが混乱し、とき悪く 93 年オケアンキャンプの宿泊棟のひとつ「パルス」が火事で焼失をしたことにより JIC も子供交流を中止せざるを得ませんでした。

今回十数年ぶりの訪問となりましたが指導者を中心に共同生活のルールを身につけさせることに重点をおいていた当時と比べると自主性を



＜アトリヤドの活動風景＞



＜オケアンキャンプに接する海辺＞

重視した教育方針に大きく変わっていました。例えば、子供たちを“アトリヤド”という小グループに分け、創作ダンス、演劇、工芸品作り、手芸などそれぞれを自分たち手作りのプログラムに基づいて活動させるというスタイルも取り入れていました。また、何よりも嬉しかったのは 93 年当時、焼失した「パルス」の 5 棟のうち 2 棟が 13 年を経てようやく 2006 年 1 月より再開される目処がついたとのことでした。今回お会いした教育長マラゾエヴァ・エテリさんも当時のパルス棟の担当者。90 年代の財政難からようやく再建の道筋がついたとのことでした。2006 年は 7 月中旬から 14・17 歳のロシア

の子供たちが21日間のプログラムに参加する予定になっているそうです。JICも夏休み時期にあわせて日本から子供たちを派遣できないか、ぜひ再開できるよう協力することを話し合ってきました。新年の抱負というよりも長い間、忘れていた宿題を思い出してしまったようで年明け早々、準備に取りかかろうと思います。



(オケアンのホームページ: <http://www.ocean.org>)
東京 杉浦 信也(すぎうら しんや)

人生を変えた2つの何気ない出来事

あけましておめでとうございます。新しい年をどう過ごそうか、年初にはいつも考えます。

私がなぜ今JICにいるのかと問われると「大学でロシア語を専攻していたから」と答えています。でも、本当はたくさんの偶然が重なって今に至っています。専攻とはいえ、たいしてロシア語に興味もなく何とか授業についていく程度でした。2年生の夏、初めてソ連旅行をしました。当時は敦賀から船でナホトカへ入り、列車でハバロフスクへ移動の後、モスクワやキエフへ飛ぶのが普通のルートでした。2週間ほどの旅行でしたが、最も心惹かれたのはキエフでした。後にこの街が私にとって重要な場所になるのですが、そのきっかけを作ったのはレニングラード(現サンクトペテルブルグ)のプリバルチースカヤホテルでした。旅行中にロシア語が通じて嬉しくなった私は、「文通しましょう」とロシア語で書いた絵葉書をホテルの部屋の引き出しに残したのです。



大学卒業後、全くロシア語と縁のない仕事をしていました。何となく物足りなさを感じていたとき、突然ロシアから手紙が届きました。すっかり忘れきっていたロシア語を、辞書片手に読みました。読み進むうちに「あの絵葉書の返事だ」と気づきました。ホテルスタッフの娘さんからでした。6年も過ぎていたのに、大切に残してくれていたのです。今に至るきっかけを作ったのは過去の自分の何気ない行動でした。文通を機に再びロシア語を勉強し始めた頃、久しぶりに会った友人が何気なく「そういえば、昨日ロシア留学のこと新聞に載ってたよ。」と教えてくれました。それがJICのロシア留学でした。直感的に「行くべきだ」と感じ、そして今へと繋がっています。

その二つの出来事がなければ、今頃は違う自分でいたと思います。何気ないひと言、自分では気にもしないような行動が誰かの人生を変えたりするものです。現在、何人もの留学生を送り出す立場となりました。多くの皆さんに留学を機に素晴らしい人生を歩んでほしいと心から願います。

ちなみに、留学へ発った後すぐに人生を共にする人を見つけました。今年はどうな年になるのでしょうか。後の自分のために、色々な花の種を蒔こうと考えています。
大阪 三宅 まゆみ(みやけ まゆみ)



サッカーと国力は組織力で決まる

あけましておめでとうございます。
『ロシアにもサービス精神が?!』

チェルシーを見にロンドンへ行ったんですが、マケレレとランパードは最強ですね。ドログバも身体だけじゃありません。

その時アエロフロートに乗りました。乗り心地はまあまあですが、元軍人がパイロットという噂は本当か? 離着陸に関しては世界一。無神経な人なら寝てられます。客室乗務員もにこやか。たどたどしくてもロシア語で「ちやい・むにえ・ばじゃーるいすた(紅茶を下さい)」と言えば、「Пожалуйста(どうぞ♪)」で紅茶+笑顔。「アッ?!」なんて言われません。サービス精神が進歩しています。モスクワの空港は電気がたくさんついて明るくなりました。トランジットコーナーで「ハヤシ『サン』」と声をかけられ乗継便のチケットをもらいました。「мистер(Mr.)!」ではありません。にくい(?)心遣いが見えた気がします。



『BRICs以上を目指せ』

私はロシアを『大きい子供』と捉えています。15年前に天から降ってきた自由という『おもちゃ』を最近はどうも使えるようになって、それがだんだん『お金』に変わってきて(上述の『サービス精神』もオマケで付けましょう)、BRICsと言われるようになりましたが、目指すは「B」「I」「C」以上。日・米・欧とは一線を画す『露』=15年前まであったプライド。ただ、今でも貧富の差が存在し中産階級が十分に育ってないので、日・米・欧とは開きがあると言えるでしょう。



ここで一度プライドを捨て、躍起にならないといけな

いのに、国の姿として『やればできるのに本気を出さないところ』が見え隠れします。(その真骨頂がサッカー・ロシア代表。強豪をとことん苦しみ、弱小国にコロっと負ける。だからW杯行けねえんだ!) 留学中のステイ先の家族や、ペテルブルグ大学ロシア語センターの先生、弊社のロシア人ガイドスタッフ、ビジネスで付き合いのある人、みんな活力のある人たちなんですが、その『アツイ個』がどうして『冷めた組織』になっちゃうんでしょう? (金も組織力もあるチェルシーは強い!)

『その答を探しに』

気になった方は(というか、JIC インフォメーション読んでいる時点でロシアが気になっているはずなので)ロシアに行ってみましょう。『おまえが子供だ』と言われるばかりの見解ですが、確固たる考え方を持つようになったのも、ロシアに旅し、留学し、働いたからです。そのきっかけが JIC の旅行・留学であれば我々は大変うれしく思います。

強引な宣伝でしたが、最後に、今年も皆さんにとってよい年でありますように。

東京 林 寛之 (はやし ひろゆき)



ホームページリニューアルします!

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年も JIC をよろしくお願いいたします。

皆さんおなじみの JIC ホームページの管理・更新を担当させてもらっている永富です。2003 年の 5 月にリニューアルオープンしてからはや 2 年以上たちましたが、つい最近! ふたたびリニューアルをたくらんでいます! (このインフォメーションを皆さんが見る頃にはできてるかな??) 再リニューアルでは、さらに皆さんにとってわかりやすく、かつロシアにマイナスイメージをもった一般の人にもなじみやすいように、いろいろと新しいことを試みています。例えばトップにロシア全土の地図を載せてみたり、今までこのインフォメーション上でしか登場していなかった、幻(?)の JIC キャラクター「ジエーニヤ (君)」が現れたりします。他いろいろと新しい仕組みやページを作っていますので、お時間あればぜひ見てみてください。



おかげさまで、年々、ロシアに旅行・留学される方が増えてきて、ロシアが皆さんにとって身近な国になっていくのは何よりも嬉しいことです。そして、そのきっかけとなる窓口が、私が管理しているホームページであればさらに嬉しい限りです。今後も将来的には、サイト内

に今流行のブログ (日記) を入れてみたり、現地ロシアの最新情報を載せたり、等々、新しいことをして魅力的なサイトにできればと思っています。皆さんからアイデアがあれば、気軽にメールを送ってください。

それでは、最後になりましたが、今年も皆さんにとってよい年となりますよう、心からお祈りしております。
大阪 永富 文彦 (ながとみ ふみひこ)

パスポートでこんにちは



電話やメール、ファックスなどでお客様から問い合わせを受け、声だけの、あるいは文字だけのやりとりがしばらく続く。その期間は、頭の中で想像している表情が僕に話しかけ、僕はその表情に話しかける。しばらくするとパスポートが届く。そのページを開いてみる。

「こんにちは」。一方的な顔合わせ。もちろん想像と一致することなどありえない。そして、パスポート写真の現実に生きている顔は全然違うのだろう。たいていは数年前に発行されたものであるし、ある時一瞬の表情を切り取ったものでしかないから。今回みなさんに「初めまして」と自分のパスポート写真を載せてみて思う。旅の空の下ですれ違ってもお互いわからない。

パスポートコントロールではじっくり写真と見比べられることが多かった。ある国ではあまりの違いに偽造と思われ、写真ページのラミネートフィルムを指でしごく確認された。おかげで少し剥げかけたぺらぺらの角は、ますます疑われる原因になっている。

有効期限は 2006 年。更新をして新しい旅を始めよう。
東京 金井 義彦 (かない よしひこ)



ロシア語始めてみませんか?

あけましておめでとうございます。実は昨年、気合も充分にロシア語講座を受講してロシア語の勉強を始めたのですが、結局、講座に参加できたのは数回だけでした。語学の勉強で一番大変なのは、“勉強を継続すること”だとつくづく痛感しています。毎日勉強することも大変ですが、私にとっては週 1 回の講座を受講することも大変です。JIC では外国語の習得に取り組んでいるスタッフが結構います。私も大きな目標を言えば、ロシア語だけではなく、英語、ドイツ語、フランス語などにも手を出したいのですが、なかなか実現できていません。



今年は“ロシア語講座に毎回参加すること!”を最低限の目標にして、ロシア語に取り組んでいこうと思います。ロシア語に興味のある方、勉強を始めようかなとお考えの方は、ぜひ JIC のロシア語講

座へ見学に来てみませんか? レベルに合わせて4つのクラスがあります。この講座は語学勉強はもちろん、ロシアの新しい一面を発見できる場にもなることと思います。お気軽にお問い合わせ下さい。

また、講座ではなくて、いきなりロシアに行ってしまうのも手です。現地を思い切り体験するなら“ホームステイ”はいかがでしょうか? 私はロシアでホームステイをしたことがあります。ホテルに比べて不便なことはもちろんありますが、ホテル滞在では絶対に味わえないロシアを見つけることができると思います。その家庭の人たちと生活して、交流して、家庭料理を堪能して…と、通常のホテル滞在とは違ったロシアを体験してみてください。

東京 柳沢 昭子 (やなぎさわ あきこ)

ウズベキスタンで出会った笑顔

皆様、明けましておめでとうございます。今年も皆様にとって素晴らしい1年になりますようお祈り申し上げます。

さて、昨年もあちこち出かけましたが、中でもずっと行きたかったウズベキスタンを訪れることができ、嬉しい年でした。10月中旬にタシケント、サマルカンド、ブハラの三都市を旅しましたが、朝晩は冷えるものの、日中は暑くも寒くもなく、まさにベストシーズン! 旧ソ連の国のひとつというイメージで出かけて行ったのですが、抱いていたイメージや予想が良い方に裏切られっぱなしの旅でした。

一番印象に残ったのは人々の笑顔。「一緒に写真を撮ろう。」と呼んだら、恥ずかしがって隠れていた柱の陰からはにかみながらやっと出てきた少女。「アッサラーム アライクム」と覚えてたの挨拶をしてみたら、難しい顔から一気に笑顔になったウズベク人のおじいさん。デジカメで撮った写真を見て、女学生のようにきゃあきゃあ大騒ぎの市場のお母さんたち。「この次来

る時はロシア語をもっと勉強してくるね。」と言ったら、「じゃあ僕は英語を勉強しよう。」と言ってくれたドライバーさん。本当に楽しそうに演じていた人形劇団の女の子たち。訪れる人も増え、ホテルやビルがどんどん建ち、



＜サマルカンドのレジスタン広場＞



＜ウズベキスタン・ブハラにて＞
～人形劇団の劇団員たちと～



発展を続けていっても、あのはにかんだ様な笑顔は、いつまでも変わってほしくないものです。今度は今回時間がなくて行けなかったヒワヤ、キルギスタン、カザフスタンなど他の中央アジアの国にも行ってみたいと思っています。皆様も是非是非、訪れてみてください。

行かれる方に少しだけご案内。ウズベキスタンのお金は一番大きなお金でも1,000スム札。100ドル両替すると100枚以上のお札が来ますので、ご旅行の際は長財布が便利です。またウズベキスタンでは、果物を食べたらお水やビールを飲んではいけません。果物の後はお茶だけ。でないとお腹を壊すそうですのでご注意ください。ホテル

では英語で全く問題ありません。その他ドイツ語、フランス語もOKです。でも少しだけウズベク語かロシア語を覚えて行ってみてください。より良い笑顔に会えるかもしれません。

東京 宮路 智子 (みやじ ともこ)

だんだん身近になってきたロシア

みなさま、新年あけましておめでとうございます。個人旅行の手配をさせて頂いている後藤と申します。

昨年は、残念ながらロシアへ行く機

会がなかったのですが旅行へ行かれたお客様からいろいろ話を伺うと、「こんな風になってるの?」とか「あーやっぱりロシア」と思うことなどいろいろロシアの印象や感想を聞かせて頂きます。その度に、今度は自分が行って確かめたいと思っています。

最近では、ロシアを取りあげる番組がとて多くなり、バラエティーやCMなんかでも「ロシア」な格好をしたキャラクターが出たりしています。このような現象を見ているとロシアも身近な国になってきているのかなと感じます。韓国もひと昔前までは考えられなかったのに、今はすごくブームですから、ひょっとしたらロシアにもそんな日がくるのかもしれない(笑)。実際、今年の冬のファッションではすでにロシアンテイストなるものが流行っているらしいですから。みなさまもロシアへ行ってロシアンテイストをお試しいただいては?

話はそれましたが、おとしより去年、去年より今年と着実にロシアへ観光される人は増えていると思います。「あーやっぱりロシアは…」というところや、言葉の問題など、他の国と比べ不自由も多いかもしれませんが、ロシアでしか味わえないおもしろいこともたくさん



秘められています。僕も今年こそロシアへ行き、もっと奥底の「ロシア」をみなさまにお伝えできればと思います。今年もよろしくお願いします。

大阪 後藤 正明 (ごとう まさあき)

日本百名山に挑む!!!

皆さん、新年明けましておめでとうございます!

突然ですが、皆さんに報告しておきます。昨年のインフォメーションでは入社したという事もあって、超固くくしい文章と形式的な証明写真。後で見たらそんな写真を載せているのは私だけで…かなり恥ずかしい思いをしました。なので今回はあくまでも“地”でいきたいと思います。

さて、皆さんは、長野県の八ヶ岳という山をご存知ですか? 以前は私も知らなかったのですが、実は八ヶ岳という名前の山が実際にあるわけではなく、南北に連なる2500~3000m級の幾つもの山の総称が八ヶ岳というのだそうです。昨年の10月に夏休みを頂き、2回に分けて八ヶ岳縦走を試みました。今までは6~8時間くらいの日帰り登山でしたが、3泊4日また2泊3日のテント泊の縦走計画を実行するのは楽しみ以外の何ものでもありませんでした。ザックに20数キロの荷物を背負い、自分の力を頼りにひたすら登る。そして山頂まで達した者だけが味わえるなんともいえぬ達成感や感動そして目の前に広がる大絶景!!!一瞬で辛い思い

をして登ってきたことが吹き飛んでしまいます。でももちろん良い事ばかりではありません。自然相手なので常に危険とは隣合わせ。突然の天候の変化で視界が悪くなり、体感温度も一気に下がり、突風に煽られ、一瞬の判断ミスで滑落事故にもなりかねません。また冬場は遭難する人も少なくありません。それでも山の魅力にとりつかれた者は、危険を顧みず自らの挑戦を続けるのでしょう。

八ヶ岳(中山、天狗岳、根石岳、硫黄岳、横岳)、北八ヶ岳(北横岳、大岳、縞枯山、茶臼山)を10月に無事縦走し、私には新たな目標ができました。それは日本百名山に挑む!!! 百名山というからには百の山があるわけで、北は北海道、南は鹿児島県屋久島まで日本全国にわたります。今の時点でいうと、1年のうち冬季を除き1ヶ月にひとつ百名山に登ったとしても、う〜ん…10年以上になってしまうかも(ー;) まあ先は長いので、



あまり細かい事は考えないようにします…。皆さんも休日には外へ出かけ自然を満喫して下さい。そして機会があったら山へ遊びに行ってみてください。そこには今までに無かった感動や自然の素晴らしさ、また新たな発見があるかも知れませんよ!

東京 浅野 真理奈 (あさの まりーな)

北海道で馬に乗りました。

でも、モンゴルで乗ったときの方が楽しかったナ。(中子)



2006年は

ロシア映画の年にしよう!

2005年の日本とロシアの関係はトヨタがサンクトペテルブルグに新工場建設の決定など、経済的な関係発展が印象的でした。ロシアと日本の関係が様々な分野で前進することは望ましいところですが、お隣の国で例の映画から発した韓流ブームを眺めながら、「ロシアでもああいふ映画でないかなあ。そうしたらロシアへ行く人がいっぱいになるのに…」と思う人はロシアに関係する仕事をする人の中では多くいます。確かにロシアの文学や映画が日本で大流行になるなんて、なかなか想像がつかないことですよ。それにそもそもロシア映画にしてもこの頃新作なんて見たことないですよ。しかし、ロシアではここ1、2年、ハリウッド映画に押されていた波が急速に変化の兆しを見せ始め、ロシア国産アクション映画、SFX映画などが作られていて、大ヒットとなっています。2004年ロシアで公開され大ヒットをとばしたSFX作品「ナイトウォッチ」は、2005年の東京国際ファンタスティック映画祭のクロージング作品として日本でも上映されました。そしてとうとう2006年にはロシア製超アクション大作がやってきます。現在の予定では3月頃から公開と言われているこの映画は、特殊部隊の男性がスーパーマン的な働きをしてテロと戦うというのですが、ロシア風「ダイハード」とも言われ、主役俳優はラッセル・クロウに似ていて(と私は個人的に思っているのですが賛同する人は少ないのです)、とりあえず邦題を「大統領のカウントダウン」と言うそうです。韓流ブームを引き起こして日本中の



おばさまたちを悩殺した例の俳優の影響力には及びませんが、興味を持つ人が増えてロシア映画がこれから日本でどんどん公開される先駆けになればいいと思います。ぜひ公開のおりにはご覧ください。

東京 中子 富貴子 (なかこ ふきこ)

ロシア情報センターでお会いしましょう

皆さま、あけましておめでとうございます。

このJICインフォメーションでもすでにお知らせしていますように、2005年秋、JIC 東京事務所と同じビルの3階に「ロシア情報センター」が開設されました。私はそこの活動を中心に10年ぶりにJICスタッフとして仕事をさせていただくことになりました。長らくご無沙汰していた皆さま、この場を借りて失

礼をお詫び申し上げます。JICではブランクとなった10年間、外でいろいろな仕事や職場を体験し、修行を積んで、(体力以外は)パワーアップしてきたつもりです。再びどうぞよろしくお願いいたします。

ロシア情報センターは現在、日々のロシア語講座の会場として、またロシア・ウクライナ等からのグループのセミナー会場としての利用のほか、これまでにいくつかのイベントが開催されました。イベントには“JIC初体験”の方々にもご協力・ご参加いただいています。これまでのほんの数ヶ月間の活動を通じて、すでに様々な方との出会いがあり、再会がありました。「そういう形で(ロシア他と)かかわっていらっしゃる方もあるんですね」「そんな活動があったんですね」と、何年この世界(?)にいても、そういう驚きは絶えないものですが、こういった人脈をさらに発展させながら、これからの活動に活かしていけたらと考えています。

今のところ、「場」としての役割がメインとなっていますが、今後はさらに「情報を集めて配信する」役割も充実させたいところです。JICインフォメーションやホームページで紹介してほしいと思う情報のリクエストなどありましたら、お気軽にJICまでお知らせ下さい。

個人旅行のご相談でカウンターが混み合う春頃までには資料を揃え、旅行相談前後に渡航先の情報をチェックしに立ち寄っていただけるようなスペースにもしていきたいと思っています。資料が十分でなかったら、ご希望の資料をお知らせ下さい。また、「こんなことをやりたい」というご提案などもお待ちしております。

2006年の皆様の幸せをお祈りいたしますと同時に、たくさんの皆様の笑顔とお会いできることを楽しみにしております。今年もよろしくお願い申し上げます。
東京 曾根 直子(そね なおこ)

「好き」になるにはまず「知る」ことから

2、3年前から時々、韓国のマサン市内の小・中学校に「日本文化紹介」の授業をしに出かけています。目を



ロシア情報センターでのイベント、
“ウオッカトライ(ウオッカ試飲会)”にて。

クリクリさせて初めて直接会った日本人や日本語に全身で集中しながら、簡単な挨拶のことばを習い「かまくら」や奈良の大仏、沖縄の美しい海などの写真を見、そしてけんだまや福笑いをして遊びます。いろいろな「きもの」の写真を見た後で実際にゆかたを取り出して子供たちに着せてやると、思わず「うわーきれい!」「ねまきみたい」「日本人みたい!」と歓声が上がります。あっという間に2時間足らずの楽しい時間が過ぎていきます。1週間ほどあとに担任の先生からいただいた子供たちの感想文を読むと、そのときの歓声がよみがえってきます。「すごく楽しかったです。また来て下さい。」「いつか日本に旅行して、そしたら絶対にけんだまを買いたいです。」「友だちがゆかたを着た時すごくきれいだった。ほんとは私も着たかったんです...」。



ロシア情報センター開設を記念して行われた“JICロシア語留学生「同窓会」”にて。

もちろん、子供たちは竹島問題やそれ以前からの歴史問題についていろいろな場面で聞いて知っていて、日本や日本人に対して悪いイメージや感情を持っている子供も少なくありません。でもそんな子供たちが、一度でも直接その国の人に出て話を聞き、ことばを交わし、人々の生活の様子を知り、そして直に文化を体験することで、その心の中の振り子がマイナスからゼロへ、そしてプラスへと劇的に変わるのです。それは「知る」ということがやはり大切なことなのだ、と私自身が再確認した瞬間でした。

以前私も参加していたJICの活動も、まさにこのことと重なると思うのです。ことばも風習も何もかも違うロシアという国やそこに暮らす人たちのことを留学や旅行を通じて知っていく。あるいは逆にロシアの人々が日本にやってきて日本や日本人を知っていく。その一人一人のプロセスを手助けするのがJICの国際交流なんだと思います。JICの益々のご発展を、韓国のマサンからお祈り申し上げます。

JICスタッフ OG 小西 佳子(こにし けいこ)



田舎への旅はいかがですか?

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年、秋口に夏休みをいただくとヨーロッパやアメリカなど海外に出かけることが多かったのですが、今年は春にロシアに行ってきたこともあり、秋にはいくつ

かの国内旅行をしてきました。

南は松山～大分～鹿児島、北へは青森～函館まで大部分を鉄道で移動し、一昨年のゴールデンウィークにシベリア鉄道旅行をされたお客様から勧めていただいた、秋田～青森の日本海側の海岸線を走る「五能線」にもようやく乗ることができました。

また念願だった奥入瀬溪流の遊歩道約9kmを十和田湖まで歩き、数歩ごとに表情を変える美しいせせらぎを五感で堪能しました。

大分の臼杵では、国宝石仏の「火祭り」、町中に竹ぼんぼりや工夫を凝らした竹燈籠を飾り般若姫行列の出る「竹宵」の祭を訪ね古い町の魅力ののんびりと味わいました。

熊本の出水では、中国東北部やシベリアからやってくるツルの渡来地を訪ね、5000羽のツルのにぎやかな「声」に驚き、すらりとした飛び姿に魅了されました。

普段、主に大国ロシアの旅行手配の仕事をさせていただいていた、目がついヨーロッパ方向に向いてしまうのですが、面積がその1/45しかないこの島国にも、これだけさまざまな魅力的な表情があるということに、今更ですが気づきました。海外旅行ではどうしても主要都市を選んで観光する旅程になることが多いものですが、



「田舎の小さな目的地を目指して行く」という旅のしかたもあるのだなと思いました。

さて、2006年が始まりました。今年はしっかりと自分の足元を見つめながらがんばっていきたいと思います。皆様にとってもよい年になりますように。

東京 杉山 香苗(すぎやま かなえ)

育児は贅沢!?

あけましておめでとうございます。

昨年私は出産&育児のためにほぼ1年間JICを離れていました。そして5月に双子の男の子が無事に生まれてから3ヶ月ほどは、育児のために世間から隔離されたような生活を送っていました。ひたすら2人にミルクをあ



げておしめを替えて寝かせ、空いた時間に最低限の家事をしたり食事したり寝たりする。新聞・雑誌や本はおろか、しばらくはテレビを見る暇さえもなかったのです(つけてはいましたが)。

事前に雑誌やインターネット、知人などの話から、その大変さについて覚悟はしていたものの、明日の天気さえも分からずに明日を迎えるなんていままでありえな



ったので、だいぶ面食らいました。

だからといって、日々の生活に支障があるわけではなかったのですが。育児には殺人もホリエモンも株価も為替も関係なく、どちらかといえば、新聞に入っている子供用品のチラシの方が役に立つようでした(が、それを見る暇もなかったのです)。そしてその時期は、子供たち以外のことに関心を持つこと自体が、贅沢な時間だったような気がします。

今も…以前ほどではないですが、それでも思うように本を読んだりできない日々が続いています。そして、多分今後もそれは続くことでしょう。だから以前よりずっと、自分の関心あることに向ける時間を大切にしたいと思っています。…ところで「子供は関心のあることじゃないのか?」と思う人がいるかもしれません。子供たちはもちろん私にとってはひどく興味ある存在で、そういう意味では私は今、贅沢な時間を過ごしてるのかも…。この贅沢な時間も、大切にしないで。みなさんにとって、今年1年が良い年でありますように。

大阪 小原 浩子(こはら ひろこ)



自分の舌でその国の味覚を楽しむ!!

新年あけましておめでとうございます。

10年余り日ロの交流・相互訪問の業務

に携わってきた者として、この数年間の情勢の変化はめざましいものがあります。領土問題をはじめとする両国間の未解決の問題や、ソ連時代と何ら変わらない査証の制度などが重くのしかかって、表面的には大きく動いていないように見えますが、水面下では、好調なロシア経済にも牽引されて、両国の関係は確実に前進しています。

それを象徴するかのようだったのが過日のプーチン大統領の訪日でした。領土問題での強硬姿勢ばかりが報じられ、何ら成果が上がらなかったかのように見られますが、観光交流の発展、両国の査証条件の相互簡素化、日露間の人の交流を今後3年間で3倍に増加し、約40万人を目指す、など、注目すべき合意もなされていました。

異なる国との理解の拡大のためには、何よりもまず自分の足でその国の大地を踏みしめ、自分の目でその国の風景を見つめ、自分の耳でその国の声を聞き、自分の手でその国の人々と握手し、そして自分の舌でその国の味覚を楽しむのが一番の近道と信じます。JICの活動を通して、隣国ロシアと私たちの間の相互理解の、更なる発展のため、ささやかなお手伝いできれば幸せです。



ところで私、昨年10月にダイエットを決意し、現在継続中です。といっても「おかわり・大盛り・揚げ物」を禁止しただけなのですが。しかしたったそれだけで、2ヶ月ほどで何と9キロ(!)の減量に成功しました。



ここから先が大変かもしれませんが、来年の新年号では、見違えるほどにスリムになった私を皆さんにお見せできるように引き

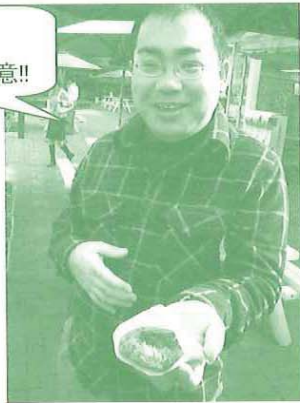
続き頑張っ
てまいりま
す。

注：写真は、

11月末の社員旅行で禁を破り、「飛騨牛コロッケ」に手を伸ばした幸せそうな表情です。なお、この下呂温泉・名古屋グルメツアー、わずか1泊2日で体重が1キロ戻ってしまいましたか

…。東京 神保 泰興 (じんぼ やすおき)

みなさん、
食べ過ぎには注意!!



「ワクワク」しましょう!!

あけましておめでとうございます。

思い出してみれば、去年はモスクワの赤の広場で新年を迎えました。凍りつくような寒さの中、大勢のロシアの友達とともに、シャンパンと打ち上げ花火で新年を祝ったことが思い出されます。4月にJICに入社するまでモスクワで留学生活を送っていた私ですが、現在は大阪事務所に所属し、皆様の快適で楽しい留学や旅行のために日々奮闘しています。



じっとしていられない私は、時間をやりくりしてフラフラとまだ見ぬ新しい土地へあちこち出かけました。足を踏み入れたことのない場所を訪れたり、見たことのないものを見たり、といったワクワク感がたまりませ

サンフランシスコのゴールデンゲートブリッジを歩いて渡りました。

ん。私にとってロシアはすでに何度も訪れた土地ですが、多くの方にとっては未知の場所なはず。またロシアは広

いので、地域によってまったく違う個性があります。その違いを確かめるのも面白いでしょう。そして、お勧めなのはそこに住んでみることに！現地の人々の生活を実際に体験してみることで、その地の本当の魅力も見えてくると思います。そういう意味で、ロシア語留学やホームステイはお勧めです。短期間で行けるコースもたくさんありますよ。また、「こんなツアーがあればいいのに」「ロシアでこんな体験はできない？」といったご要望があればご相談下さい。今年も皆様の「ワクワク」を叶えるために頑張ります。

私自身の新しいもの見たさの好奇心も当分おさまりそうにありません。コーカサス地方、中央アジア、バルト3国・・・次なる「ワクワク」を求めて、今年はどこへ行こうかな。

大阪 小西 章子 (こにし あきこ)



ちょっとシリアスなタッチ...

あけましておめでとうございます!

年末年始の休日を設けた人は、なんとすばらしい発想の持ち主だっただろうと、この時期が来るたびに思います。人生には卒業、結婚、転職や退職など、それとなく大きな境目がいくつもあり、今までの自分を顧みたり、これからの自分を考えたりする時間でもあるのですが、そういった分岐点が毎年訪れるわけではありません。しかし、一年間というものは短いようで実は意外と長い人生の一コマなので、どうしても頭や心の中を整理したくなりますよね。嫌な事にけじめをつけ、いい事を楽しい思い出に変え、自分なりの365日間の総合評価を考えるに相応しい時期はやはり年末年始だと、私は思います。そして新しい気持ちで次の年に臨めるのも、この時期があるからこそです。

去年は我が社にとって、相変わらず大変ながらも非常

に充実した年でした。私が所属する外人旅行部でいいますと、またしても来日する観光客が増え、デスク・イン・ネーションも豊富になりました。そして何よりも、日本の事を真に理解しようと努力するお客さんが



数多くなりました。しかしそれと裏腹に、増加する問い合わせをさばくのにはほとんどの時間を充ててしまい、全体像が見えにくくなったり、新しい発想が沸かなくなったり、依頼→見積り→手配という簡単な作業の繰り返しの呑み込まれ、働く意欲を失ったり、何かしらと悩みごと...。毎日のルーティン・ワークの網にがっちり捕まってしまう、それを破る方法を今年こそ模索したくて仕

方ありません。

年末年始の時期に相応しく、昨年の悩みや邪念にけりをつけようと、最近友達に言われた言葉をよく思い出します。「人生は、本当は単純なもの。それを必要もなく難しくしているのは人間なんだ。」もっとシンプルに、前向きに、自分が思うがままにやればいいんだ！とその時、私は思いました。その一瞬の“ひらめき”を忘れず、今年は気持ちを切り替えて、お客さんがもっと感動するような、素敵な提案をいっぱい考えてみたいと思います。まあ「シンプル」に言えば、それは私の今年の抱負というやつです。皆さんにも、細々とした事に気をとられず、もっとシンプルにまっすぐに頑張ってほしいです！

東京 モロゾフ・デニス

不可逆的な日々

新年おめでとうございます。昨年 9 月より出産・育児休暇に入り、10 月末に男児を出産しました。生まれて初めてハハというものになり、愛しいものが増えた喜びと弱点が増えた戸惑いを味わいながら日々暮らしています。

妊娠してから幾度となく感じたことは、私って、生物（イキモノ）だったんだなあ、ということ

出産 10 日前です！

です。当たり前のことですが、自分の意思に関係なく、自然の法則に従って妊娠後の体は日ごと変化していきます。仕事中心の生活をしていた時には、何か失敗があっても心機一転



やり直してみようとか、体力作りして若返ろうとか、気分次第で時間をとらえ結果的には時間の流れを感じずにいられたのですが、今回は自分の都合や気分というものが入る余地がありません。三步進んで二歩下がるという甘さがなく、胎児の体重は確実に増えるばかり、生まれたらまさに一日ごとに成長します。抗えない時間の流れは今や目に見えるようになり、しかもどうやら私が思っていたより速いようです。この流れに飲まれることなく、日々ラフティングを楽しみつつ齢を重ねられるようになりたいものです。



掃除機をかける頻度ひとつとってもかつてとはかけ離れた（ハイ、とても）状態の今、すべてが私の好んでいた会社仕事と気ままな遊びに彩られた生活とは違う別世界に住んでいます。これもまたよし。やがて仕事場に戻るまでの間にはさらにいろんな経験を積みそうです。戻った折には、今までは「よくわからん」と内心敬遠していた幼児料金のおし方などにむしろ興味がわき、家族旅行プランなどにこだわるなど、前とはちょっと違った私にもなれるかもしれません。この 2006 年が、皆様お一人お一人にとってもそれぞれの境遇やマイワールドを楽しめる、ステキな年になりますように。私自身は JIC には今しばらくお休みをいただきますが、今年も JIC をどうぞよろしくお祈りします。復帰しました際にはぜひまたお声をおかけください。

東京 百瀬 智佳子（ももせ ちかこ）



今年も JIC を
どうぞよろしくお祈りいたします!!



今年も頑張りました!
神戸市外国語大学

語劇祭

第 56 回を迎えた神戸市外国語大学の恒例行事、語劇祭が昨年 12 月 3 日(土)に神戸 新開地・アートビレッジセンターで開催されました。今年もロシア語劇団は頑張りました!! 学生たちは今年の演目であるチェホフの「ワーニャおじさん」をすばらしいロシア語と抜群の演技力で演じきりました。すばらしい～! これを機にロシア語の学習も頑張ってくださいね。 JIC大阪



JIC のロシア語研修コース一覧

★1 週間からのプチ留学

～なかなかお休みが取れなくても、1 週間ならなんとか時間を捻出可能。旅行感覚でいけるプチ留学です～

モスクワ・ペテルブルグ・ウラジオストク
ホームステイ&ロシア語レッスン

★いつでも行ける短期プライベート研修

モスクワ・ペテルブルグ・ウラジオストク
宿泊はホームステイと寮を選ぶことができます

★夏のロシア語研修旅行 9 月(ペテルブルグ大学でのロシア語グループ研修 2 週間+モスクワ旅行)

★春のロシア語研修旅行 3 月(モスクワ大学でのロシア語グループ研修 2 週間+ペテルブルグ旅行)

★長期留学(国立モスクワ大学・国立サンクト・ペテルブルグ大学・国立ウラジオストク極東大学)

10 ヶ月間 4 月出発 9 月出発

詳細は各パンフレットをご請求ください。



JIC ロシア留学セミナー (2005 年 11 月 5 日: 大阪)



ロシアの政治経済事情 <前編>



大阪経済法科大学学長 藤本和貴夫氏

2005 年 11 月 5 日(土)、大阪にて、大阪経済法科大学学長の藤本和貴夫先生を講師にお招きし、「ロシア政治経済事情と留学」というテーマで JIC ロシア語留学セミナーを開催しました。ロシア留学を考えておられる方々などが参加し、現代ロシアの政治面、経済面、社会面での激しい変化を紹介しながら、ロシア語留学の意義についてお話していただきました。今回はその前編です。

みなさんこんにちは。今日は「これからロシアへ行こう」、「ロシアで勉強したい」という方の集まりですが、まずは、現在のロシアがどうなっているのか、ということについてお話ししたいと思います。

始まったロシアへの企業進出

私はほぼ毎年、夏にモスクワとウラジオストクを訪れています。去年モスクワに行く直前に、北オセチアのベスランで小学校がチェチェンの武装勢力に襲われるという事件が起きました。これはモスクワも大変だ、地下鉄にも極力乗らないようにしないと…、なんて考えていたんですが、行ってみたら何ということもない、街も地下鉄の中も普通の状態でした。まあ赤の広場の脇に並んで停まっているはずの観光バスをほとんど見かけなかったのが去年の印象で、それはまだ事



件の 1 週間後くらいですから当然ではありました。しかし、今年の夏に行ってみたら昔の通り、赤の広場の前に観光バスが延々と停ま

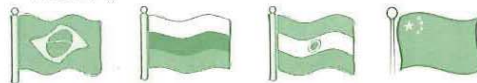
っているし、人々もまったく普通に走り回っていました。日本人ではなくヨーロッパからの観光客が非常に多いですね。かつては日本人観光客の乗った観光バスもかなり見かけたのですが、最近は赤の広場もホテルのレストランもヨーロッパからの人々がとても目立つようになりました。日本から見ると、相変わらず日本-モスクワ間は遠いという感じがしますが、ヨーロッパから見るとロシアは非常に近い国になりましたね。それは今年行ってみてますます感じました。

それで、今年の夏はモスクワでルノーの工場に行きました。ルノーというのはフランスの国営自動車会社です。日本ではルノー車はあまり走っていないけれども、この会社がロシアの国営自動車会社に資金提供して、モスクワに新しい工場を建てました。今年の 5 月頃にオープンして、組み立て製造を始めています。ただし、全部をロシアで作っているわけでは

なくて、エンジンはルーマニアで作って、それをモスクワに持ってきて組み立てています。従業員はまだ 400 人くらいだと言っていましたけれども、秋になったら倍にするということで、フランスのロシアへの投資がどんどん進んでいます。で、日本の自動車会社はどうかというと、日本からはトヨタがサンクト・ペテルブルクに工場を建てるということで、今年 5 月に工場の起工式がありまして、そこにはプーチン大統領も出席しました。日本の自動車会社もやっと本格的にロシアに進出を開始しました。この自動車生産というのは実は非常に大きな意味を持っているんですね。というのは、自動車部品をどこで作るかということが大切で、トヨタの場合はトヨタ本体だけでなく、その部品を作る中小メーカーも一緒にロシアへ出て行くということになります。これまでロシアに進出する日本企業というのは、鉄鋼、電機などの大手メーカーや商社が中心で、中小企業はなかなかロシアに入りにくかったんですが、これからは大手企業だけでなく中小企業の進出も始まるということで



BRICs という言葉があります。BRICs というのは、B がブラジル、R がロシア、I がインド、C が中国で、現在、世界で急速に成長発展している国を表現しています。これらの国はどんどん経済発展しているから、その国の会社の株を買えば上りますよ、儲かりますよ、という話を証券会社が一生懸命言っています。ルノーやトヨタがロシアに進出したというのがその象徴で、各国の様々な企業がロシアに投資し始めたということがいえます。



では、ロシア語をこれから勉強してどうなのかということですが、トヨタがロシアに工場を作ったら当然日本から人がいっぱい行くわけですね。ところが仕事でロシア語が使える人は少ないものですから、今のところは、一度引退した人たちがもう一度トヨタの社員として、2、3年前からロシアに行っています。当時はまだトヨタの件はオープンにはされていませんでしたけれど、今でははっきり表に出ている。ということはそれにつれていろいろな企業がこれから出て行くだろうと思います。皆さんのロシア語の使い道があるわけですね。

市場化(民営化)で急成長した新興財閥

では、なぜ今まで外国企業がロシアに出て行かなかったのかということですが、これはやっぱり法律面で色々

難しい問題があったんですね。ロシアは、ご存知の通り以前は社会主義国で企業は全部国営企業でした。1991 年にソ連邦が崩壊して、市場化つまり資本主義化を進めるということで、国営企業が民間に払い下げられることになりました。それまで国のものだった企業を全国民に分けるということになりました。どう方法でやったかという、バウチャー(民営化小切手)方式ですね。大雑把に言うと、それまでの国有財産総額を国民一人当たりで頭割りした結果、あらゆる人に額面 1 万ルーブルの小切手をただで配ったわけです。ところが小切手をもらった人たちはその小切手をどうやって使ったら有利か分からない。一番使い方を知っているのは今まで企業を経営していた人たちですから、たとえば、彼らが「小切手を全部貸しなさい、預かりましょう。これで工場を運営してみんなが儲かるようにしましょう」と言って小切手を集めるといったことが行われました。その結果、普通の人たちは結局損をして、企業を運営している人たちがお金を取り込んでしまうという形で金持ちの企業経営者が生み出されたわけです。そういう形で民営化の中で儲けた人たちが実はエリツィン政権を支えた人たちなのです。まあ、明治維新のあとで日本でも官営企業を三井とか三菱に払い下げたのと似たようなことをロシアでもやったわけです。

それで彼らが最終的にどうしたかという、巨大な財閥を作ってしまいました。民営化を推し進めたグシンスキーとか



ベレゾフスキーといった人たちが新興財閥の代表として登場しました。それで、1997 年頃から今度は財閥同士の喧嘩が起こり始めるのですが、その中で一番力を持ってきたのが、石油企業ユコスの社長のホドロコフスキーという人です。

要するに、財閥で儲けた人たちは最後には石油の利権を狙います。石油は国の天然資源なのに、それをユコス社という私営企業が持っていてしまった。しかもホドロコフスキーは政治にも介入してきたということで、やがてはプーチン政権と対立することになります。2003 年 7 月にユコスの親会社・メナテップ社の幹部が過去の株式不正取引取得の嫌疑で逮捕され、ホドロコフスキー自身も 10 月に逮捕されてしまいます。ホドロコフスキーの事件というのは、「民営化でうまいことやって大金持ちになった奴らはけしからん！取り締まれ！」という国民の強い不満の声を利用してプーチン政権が新興財閥のホドロコフスキーを潰してしまおうとした事件ですが、財閥を全部取り締まったら市場化はできないので、プーチン政権に反対する財閥を強力に取り締めたわけです。

財閥の不正を取り締まるのと同時に経済関係の法律もだんだん整備されてきて、やっと外国の資本が入りだしたというのが現在のロシアの状況で、それで BRICs なんて言われるようになったんですね。

プーチン政権の 2008 年問題

もうひとつ今モスクワで話題になっているのは、プーチン大統領が次の大統領選に出馬するのかどうかということです。プーチン大統領は 70% という非常に大きな支持率を誇っていますが、ロシアの大統領の任期は 1 期 4 年で 2 期まで、8 年以上は出来ないというのが憲法上の決まりです。プーチンが大統領になったのは 2000 年で、2004 年に大統領に再選されました。憲法上の取り決めに従えば、2008 年の大統領選挙にはプーチンはもう出られないはずなのですが、ところが支持率が 70% もありますから「もう一回出てもらおう」、いやプーチンも出たがってるんじゃないかという話があって、だから憲法を変えようというような議論まで出ています。ところが、もし憲法を改正して第 3 期目もやると



というようなことになると、西側諸国から非常に独裁的で民主主義に反すると非難されるのは分かりきってます。それで 2008 年にプーチンがもう一度大統領選に出るかということが注目されているわけです。プーチン大統領自身はそのことについてあまり言及してこなかったのですが、この 9 月



に西側諸国とロシアの学者やジャーナリストを集めた会議があり、プーチン大統領はその会議で、「2008 年には出ない。憲法通りだ」と言ったようです。とは言え、大統領は 2 期で辞めるけれども、その 4 年後に立候補するのは自由なのでもう一回出るかもしれないとか、大統領から今度は首相になって実質的に政権を引き継ぐんだとか、色々な話が飛びかっています。これは今後のロシアを占う上で非常に重要な点ですから、是非注目しておいてください。プーチンが 2008 年の大統領選挙に再出馬するかしないか、あるいは出馬しないにしても実質的に権力を維持するようなポジションにつくのかつかないのか。日本でも小泉さんが次 (2006 年秋の自民党総裁選) は出ないと言っていますが、仮にこれが続投するとなると大騒ぎになるのと同じことですが、ロシアの場合はずっと強権的な体質があるんじゃないかと疑いをもって見られていますから、特に 2008 年にプーチン三選があるのかないのかは大きな問題になります。

プーチン政権を支える人々

2008 年問題と関連して、プーチン政権は一体どういう人たちで成立っているのかという問題があって、これは今後のロシア政局を占う上でも大きく関係してきます。

よく言われることですが、エリツィン政権の背後にいたのは「エカテリンブルグ・マフィア」と呼ばれる人たちです。エリツィンはロシアの大都市、スベルドロフスク (現エカテリンブルグ) 出身です。スベルドロフスクの共産党第一書記だった彼がモスクワに出てきて最後はロシアの大統領に上りつめ

た。それで、エリツインを支えていたスベルドロフスクの共産党組織の人たちは、彼がモスクワに行くと同時にみんなモスクワに出て行くわけです。そしてエリツインの取り巻きとなって、うまく民営化に乗ってお金持ちになったわけです。そういう人たちのことをエリツイン時代には“с е м ь я”(家族)と呼んでいました。

一方、プーチンはKGB出身です。そして、生まれはロシア第二の都市サント・ペテルブルクですから、「サント・ペテルブルク・マフィア」と呼ばれる人々がプーチン政権で重要な役割を担っています。プーチン第一期目ではエリツイン側のエカテリブルク・マフィア“с е м ь я”と、プーチン



側のサント・ペテルブルク・マフィアとがお互いに妥協しながらやっていくのですが、2004 年の大統領選挙の頃から両者の牽制が激しくなり、やがてサント・ペテルブルグ派が主導権をとっていきます。ただ、このサント・ペテルブルク派も実は2つに分かれているんですね。一つは「シロビキ」。これは“с н л а”(力)という言葉からきた呼び方で、つまり軍とかKGBとかいった武力を持った治安関係者のグループです。もう一つは「シロビキ」ではないサント・ペテルブルク出身者たちのグループ。「シロビキ」とサント・ペテルブルク派は両方ともプーチン政権を支えているのだけれども、これらは必ずしもイコールじゃない。その間には矛盾があるんだということです。それでプーチンが 2008 年で辞めた後、誰が後継者になるのか、「シロビキ」の出身者なのか、それともサント・ペテルブルク派なのか注目されています。ちょうど今の、「小泉さんの後継者は誰だ？」というのと同じような問題がロシアにもあるということです。

これが現在のロシアの政治状況です。しかし、プーチン大統領は「秩序」「法治主義」ということを強く打ち出しており、民営化で「成金」になった人たちも含めて法律に従って規制していこうとしています。ここにロシア社会の一定の安定化が生じ、外国企業がロシアに進出する背景となっていると思います。



ロシア社会の実相～広がる経済格差

では、実際にロシアの社会はどうなっているのか。「論拠と事実」という新聞の最新号(2005 年第 33 号)に載った「現代ロシアの社会層」という記事によれば、ロシアの社会層は富裕層と貧困層にはっきり分かれているということがロシア社会設計研究所の資料からわかります。富裕ゾーンと言うのはだいたい3割ぐらいですね。月収が一番高い富裕層は、最高経営者、中小企業のオーナー、高度熟練専門家、これは全人口の割合の1.8%、月収は平均 25000 ルーブルです。月 25000 ルーブル月給があれば大金持ちの部類に入ることですね。見ていくと高度熟練労働者が 15000 ルーブル、中間管理職が 8000 ルーブル、それから熟練労働者、民間会社が 10000 ルーブル。知識人、公務員、主に女性の教育者、医師が 5600 ルーブルとなっています。失業者(800 ルーブル)は別にして、年金生活者が 2300 ルーブルですね。これが月収です。ロシアに行つたときにどれぐらいで生活できるかという、もちろんモスクワとそれ以外の都市によって全く違います。モスクワの物価は日本と同じくらいだと考えてよいくらい高いです。でも、これら労働者の月収を参考にすれば、どれぐらいのお金があれば生活が出来るかだいたい分かります。ただし、あくまでロシアでロシア人と同じような生活の仕方をするという意味で、われわれがロシアへ行って外国人として生活するともっと高くつくということはありません。



これだけ貧富の差がある中でも一番困っているのはやっぱり年金生活をしている人たちでしょう。実は 2005 年の1月に「特典現金化法」という法律をめぐって大きな問題が起こりました。これは何かというと、ロシアでは第2次大戦に出兵した人には証明書があって、それを見せると地下鉄を含めてどこでも無料で乗ったり入れたりという特典があったわけです。年金生活者も年齢によっては地下鉄などが全部タダになっていました。しかし、タダになる人の割合が多すぎて赤字になるので、この特典はもうやめて代わりにお金をあげますということをプーチン政権はやったのです。それまで無料パスをもらっていた人はどこに行くにもお金がかかり、あっという間にお金がなくなってしまうということで、年金生活者や元・軍人が反対運動を起こして大騒ぎになりました。それでこの一部分は先送りになりました。このような問題はありますが、現在のプーチン政権は一応安定していると言われています。ただ 2008 年にプーチンの後継者がどうなるかによっては、またロシアの状況は変わってくるのではないかと思います。



た人には証明書があって、それを見せると地下鉄を含めてどこでも無料で乗ったり入れたりという特典があったわけです。年金生活者も年齢によっては地下鉄などが全部タダになっていました。しかし、タダになる人の割合が多すぎて赤字になるので、この特典はもうやめて代わりにお金をあげますということをプーチン政権はやったのです。それまで無料パスをもらっていた人はどこに行くにもお金がかかり、あっという間にお金がなくなってしまうということで、年金生活者や元・軍人が反対運動を起こして大騒ぎになりました。それでこの一部分は先送りになりました。このような問題はありますが、現在のプーチン政権は一応安定していると言われています。ただ 2008 年にプーチンの後継者がどうなるかによっては、またロシアの状況は変わってくるのではないかと思います。



＜セミナーを熱心に聴く参加者の皆さん＞
況は変わってくるのではないかと思います。

つづく

次号でも引き続き、藤本和貴氏による留学セミナーの後編をお届けいたします。次号では、北方領土問題や石油パイプライン問題、漁業問題をめぐる日ロ関係についてのお話です。また、東京で行われた留学セミナーについてもご紹介いたします。お楽しみに!!

～いろいろやっています！JICのイベント♪～

イベント報告

ミニ講演会

「チェチェン問題から見るロシア」

米同時多発テロ以降の現地からの報告と2008年への展望

11月5日(土)、朝日新聞・元モスクワ特派員の横村出氏をお招きし、「チェチェン問題から見るロシア」と題して講演をしていただきました。横村さんは2001年から05年までの4年間にわたってモスクワで特派員としてご活躍なされていました。モスクワでの任期中は、イラクをはじめ紛争の絶えない地域へ行かれることも多く、揺れ動く現地の情勢をあらゆる地で取材されていました。またチェチェンへの取材活動を重ね、日本への帰国後、2005年7月に『チェチェンの呪縛』(岩波書店)を執筆、出版されました。チェチェン問題とは何か。日本ではあまり語られることのないこの問題について、現地で取材されたときの写真などもまじえながらお話いただきました。

難しいテーマであるにもかかわらず、当日は20名以上の人が参加されました。みな話に熱心に耳を傾け、スクリーンで映し出される写真に見入っておられました。横村さんが実際に訪れた“チェチェン人が暮らす難民キャンプ”の写真にはたくさんの子供たちや、幼い子供を抱える母親の姿が写っており、一般の人々がこの戦争で犠牲になっていることがよく分かりました。

横村さんは、チェチェン問題に対するロシア政府の動きや世界情勢について、ロシアで起こったテロ事件の背景などを詳しく説明してくださいました。またそれに関連し、今後留学や旅行でロシアを訪れる人が知っておかねばならないこととして、ロシア社会の現状についてのお話やアドバイスもしていただきました。最後の質疑応答では、各々の興味・疑問を横村さんにぶつけ、丁寧に答えていただきました。

後で参加者のアンケートを拝見すると「勉強になった」「知らな



ったことが大変多かった」という声が多数ありました。また、当日会場で販売した横村さんの著作を買っていかれた人も多かったです。あらためて日本ではチェチェン問題についてきちんと知られていないということを感じました。

<チェチェン問題が分かる本>

『チェチェンの呪縛 -紛争の淵源を読み解く-』

横村 出著(岩波書店 2005年)

『チェチェン やめられない戦争』

アンナ・ポリコフスカヤ著

三浦みどり訳(NHK出版 2004年)

『チェチェンで何が起きているのか』

林 克明、大富 亮著(高文研 2004年)

JIC では今後もこのような講演を続けていきたいと考えています。今後のテーマとして取り上げてほしいことや関心のあることなど、どうぞJICのロシア情報センターまでお知らせ下さい。

～ロシア情報センター～

住所:160-0004 東京都新宿区四谷4-1 小島ビル3階

電話:03-3355-7287 FAX:03-3355-7289

JICフェア(大阪)

毎年恒例のイベント、大阪JICフェアが昨年12月18日(日)に行われました。

在阪のロシア・旧ソ連地域の方々やロシア好きの方が集まり、年2回開催されているこのイベント。参加者それぞれが何か一品、食べ物や飲み物を持って集まり、久しぶりのおしゃべりを楽しんだり、ロシア語の練習に挑戦したり、情報交換をしたり、新しい友達を作ったりなど・・・それぞれに楽しめる大好評のイベントです。今年も例年同様、非常に多くの方にご参加いただき、楽しいフェアとなりました。毎回楽しみにしてくださっている方もいらっし



やれば初めての方もちらほら。またロシア人も日本人も、大人から学生さん、小さな子供たちまで、ありとあらゆる方が集まってくさいました。皆さま、どうもありがとうございました。

次回は5月か6月を予定しています。詳細が決定いたしましたらホームページや本誌で日時や詳細を発表いたしますので、どうぞお気軽にご参加下さい！

(JIC大阪 小西章子)



JIC 東京クリスマスパーティー

去る 2005 年 12 月 17 日(土)、東京・神保町のレストラン「ろしあ亭」にて、クリスマス・ディナーパーティーを開催いたしました。長年のロシア通の方、文学、鉄道旅行、音楽など何らかの理由でロシアの魅力にはまっていた方、ロシア語学習中の方、日本で働くロシア人の方などが集まり、貸し切りの店内いっぱいの総勢 40 名、楽しくおいしいひと時を持ちました。ロシアビール「バルチカ」、グルジアワイン、ウオッカを口に含み、ザクースカ(ロシア語で前菜)をつまめば、気持ちはみんなロシアへ。ロシア語も飛び交いみなさまそれぞれの熱い思いを語られていました。前菜、ピロシキ、シャシリク、きのこのつば焼きもみんな心のこもったおいしいお料理でした。勿



論、グルジアワインは大人気!! でした。

今回は、遠方は広島、静岡、群馬県からご参加下さり、スタッフ一同感謝でいっぱいです。関心をお持ちの分野は人によって様々で

も、「ロシア」の一言でこれだけの人が繋がっていけるということに新たな可能性を感じました。これを励みに、今後も楽しいイベントを企画して参りたいと思います。(JIC 東京 杉山香苗)



JIC のホームページチェックてね!!
<http://www.jic-web.co.jp>



締切迫る!!

春のロシア語

研修旅行!

モスクワ大学ロシア語研修
& サンクトペテルブルグ旅行

2006 年 3 月 5 日(日)~23 日(木) 全 19 日間

成田・関空発

¥258,000-

締切: 1 月 18 日(水)

2 週間のモスクワ大学でのロシア語研修と旅行がセットされた毎年恒例のプラン! 休日にはモスクワ観光を、研修後にはサンクトペテルブルグを訪れます。ロシア語研修も観光も十分ご堪能いただけるおすすめプランです。

「少し自分で勉強したロシア語を現地でやってみたいけど、どうせ行くならしっかり観光もしたい!」「長期留学を考えているけど、とりあえず感じをつかみに行ってみたい!」「旅行とはちょっと違った体験がしたい!」「ロシア生活とはどんなものか体験してみたい!」という方に特におすすめです!

詳しくはパンフレットをご請求下さい。締切は 2006 年 1 月 18 日(水)です。もう締切間近です! 資料請求・お問い合わせはお近くの JIC までお気軽にどうぞ。



詳しくはパンフレットをご請求下さい。締切は 2006 年 1 月 18 日(水)です。もう締切間近です! 資料請求・お問い合わせはお近くの JIC までお気軽にどうぞ。

東京: 03-3355-7295
jictokyo@jic-web.co.jp
大阪: 06-6944-2315
jicosaka@jic-web.co.jp
HP: <http://www.jic-web.co.jp>



ロシア情報センター

2006 年イベントのご案内

2005 年 10 月、「ウオッカライ」と称して開催したウオッカ試飲会がとても好評でした。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。2006 年は「ウオッカ講座」として装いも新たに、さらにウオッカについて深く知るための新企画として登場の予定です。講師は「ウオッカライ」でも講師をつとめてくださった、銀座のショットバー「BLOODY DOLL」の土谷マスターです。

★詳細・参加費については未定です。詳細はお問合せ下さい。決定次第、ホームページなどでも紹介いたします。

~「ウオッカ講座」5 回シリーズ(予定)~

2 月 25 日(土) ウオッカの歴史

4 月 22 日(土) ウオッカの種類(1)

6 月 24 日(土) ウオッカの種類(2)

8 月 26 日(土) ウオッカと料理

10 月 28 日(土) ウオッカとカクテル

時間: 各回とも 14:00-15:30

会場: JIC ロシア情報センター

(JIC 東京事務所と同じ小島ビル 3 階)



1月の予定

- 1月14日(土) JIC東京・大阪 留学相談会
(13:00-16:00) 要予約
- 1月18日(水) 春のロシア語短期研修旅行申込締切
- 1月28日(土) JIC東京・大阪 留学相談会
(13:00-16:00) 要予約
- 1月31日(火) 4月出発長期留学申込締切

イベントや予定については、JIC 東京・大阪各事務所までお気軽にお問合せ下さい。また、ホームページでもご紹介しております。

ホームページ: <http://www.jic-web.co.jp>

ロシア語を始めませんか?

JICロシア語講座開講中



東京会場 四谷3丁目(JIC ロシア語情報センター)

<1月より3学期スタート>

入門(月) 初級(水) 中級(木) 上級(金)

18:30-20:00 受講料 36,000円

途中参加可能!

大阪会場 天満橋(エルおおさか)

<10月より後期開講中>

中級(月) 入門①(水) 入門②(金) 初級(金)

入門①・初級 18:30-20:00 中級・入門② 19:00-20:30

受講料 35,000円(学生 30,000円)

* 詳細はお気軽にお問合せ下さい *

ロシア長期留学4月生・募集中

【期間】2006年4月より10ヶ月

【締切】2006年1月31日

締め切り間近!!

モスクワ国立大学 \$5100 (授業料10ヶ月)

サハリン国立大学 \$4000 (授業料10ヶ月)

ウラジオストク極東大学 \$2800 (授業料10ヶ月)

* 上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などがかります。



ロシア語個人研修 (随時募集)

☆モスクワ・ダリパス社 1週間~1ヶ月 (ホームステイ3食付)

☆モスクワ大学 1週間~長期 (大学寮1人部屋)

☆G&Rインターナショナル 1週間~長期
(ホームステイ2食付/大学寮2人部屋)

☆ペテルブルグ・パートナー社 (ホームステイ2食付)

☆ペテルブルグ文化大学 1週間~長期
(ホームステイ2食付/大学寮)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~長期 (大学寮1人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~1ヶ月 (ホームステイ2食付)

☆ビジット生活体験コース (ホームステイ3食付)

留学・研修各種パンフレットは
JICへご請求ください。
留学・旅行相談お待ちしております!

ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



インターナショナルなリデンの雰囲気

ロシア留学旅行相談 (東京・大阪各事務所)

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に
応じます。お気軽にお越しください。



東京事務所 平日 10-19時 土曜 10-16時

大阪事務所 平日 10-19時 土曜 (6-9月のみ) 10-16時



JICは頑張る人を応援します!



旧ソ連関係のイベント案内掲載をご希望の方はJICまでご相談ください。イベント時期の約2ヶ月前に情報をお送りください。JIC インフォメーションの発行は、1・2・4・6・9・11月の6回となります。

掲載内容がJICの活動に合わない場合はお断りする場合がありますのでご了承ください。

~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年6回、またJICのイベント案内をもちろんお届けします。

年会費3,000円を下記口座にお振込みください。

郵便口座: 00120-5-367767 国際親善交流センター